

Deloitte.

デロイト トーマツ



令和4年度 美術品DXによる管理適正化・市場活性化推進事業

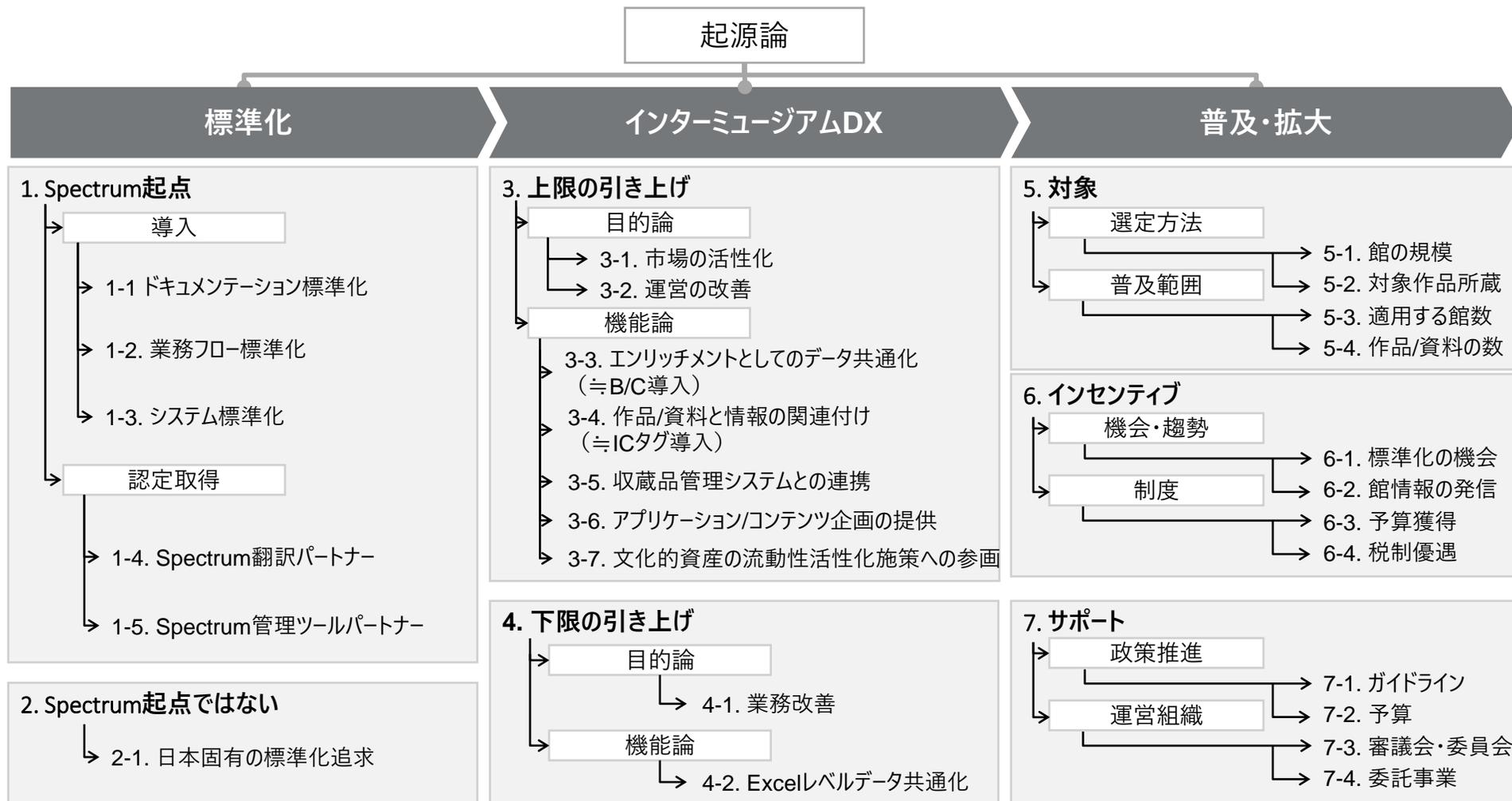
実証を踏まえた中期的な作業イメージとマスタスケジュール案

有限責任監査法人トーマツ
2023年3月31日

< Confidential >

これまでの貴庁とのご議論及び委員会討議を通じて、事業推進の論点が抽出されるとともに、論点は、事業全体にとっても博物館/美術館にとっても選択的であることが明確化した

これまでの議論を以って得られた論点



(各論点の説明は次項参照)

貴庁としてはいかなる事業の設計が望ましいか、また各館の皆さまにとっては各論点についてどのようなご意向を持たれるか、論点抽出を経て検討材料が共通化された

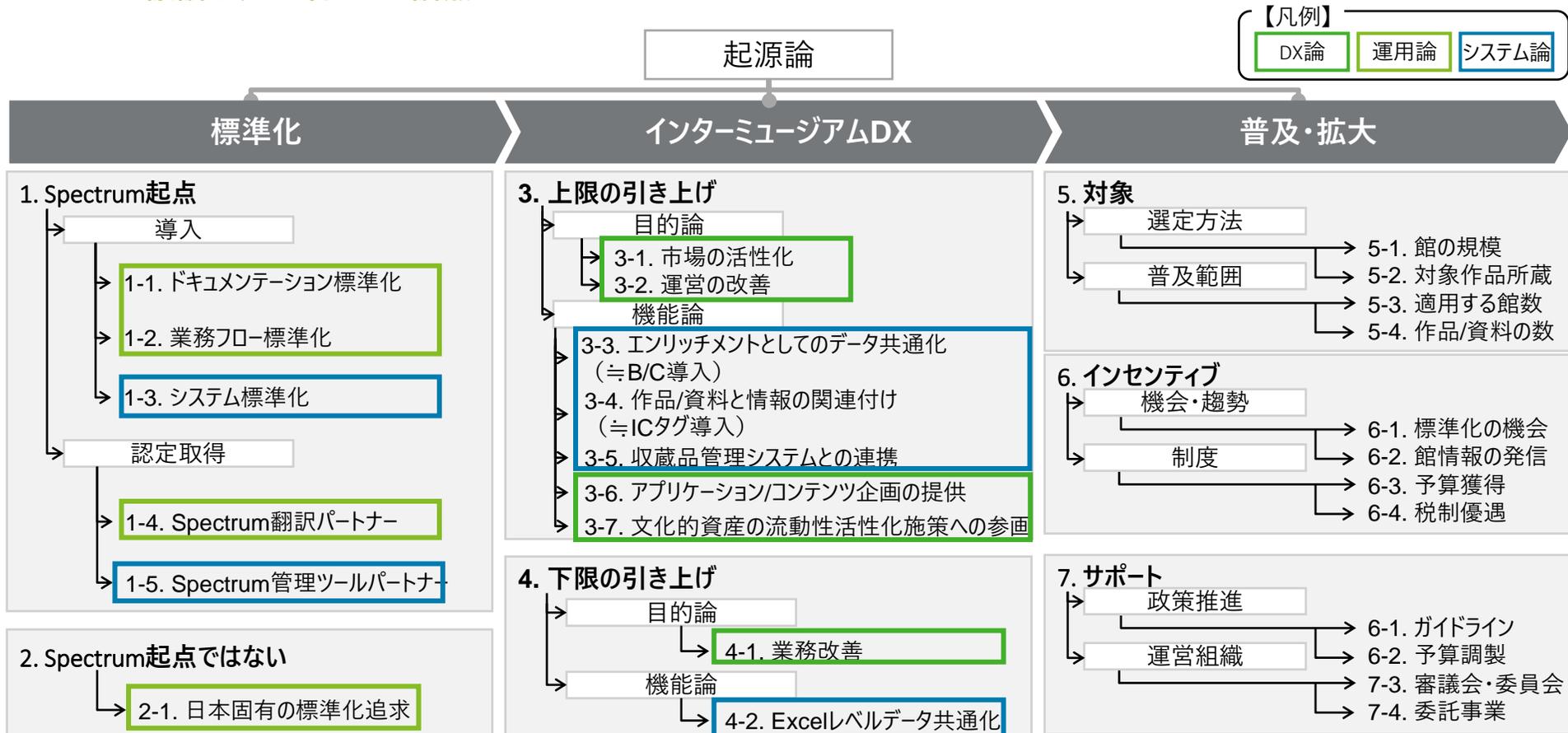
論点

ID	内容
1-1	ポリシー標準化の現状深度・実施有無 (cf. 博物館DX)
1-2	Spectrumを参照した業務標準化に対する意向
1-3	収蔵品管理システムのSpectrum仕様対応に対する意向
1-4	翻訳版Spectrumの認定を受け、CTに本邦として加盟するか
1-5	収蔵品管理システム開発会社のSpectrum認定に対する意向
2-1	Spectrumとは別の標準化として日本独自のあり方を追求するか
3-1	作品/資料の流動性活性化に資するプラットフォームの意義
3-2	館横断のプラットフォームによる各館が享受する業務改善メリット
3-3	他館データ参照・改ざん不可能性などデータ管理高度化可能性
3-4	ICタグなどによる実物の作品/資料と情報を関連付ける意義
3-5	既存収蔵品管理システムと館横断DXを統合するアーキテクチャ
3-6	データ利活用の結果、コンテンツとして何を実現したいか
3-7	プラットフォームによる作品/資料の流動性活性化の具体的施策
4-1	底上げ的な業務改善としてまずはどこまで進めるべきか
4-2	エクセルデータ化による初期的な館横断DXの可能性と参画者

5-1	館の規模に基づく、標準化または館横断DXの候補館の選定
5-2	ナショナルコレクションを所蔵するかどうかという候補館の選定方法
5-3	標準化または館横断DXの年単位での適用館数の目安
5-4	館横断DXの対象作品/資料の数。端的にはICタグ取り付け対象
6-1	各館にとっての標準化推進の契機・動機付け
6-2	本件取り組みについて情報発信することの各館メリット
6-3	予算獲得説明材料としての参画動機付けの可能性
6-4	税制優遇による参画動機付けの可能性
7-1	ガイドラインにおける望ましい博物館についての記載内容
7-2	政策推進としての予算規模
7-3	推進実務主体は誰か。体制における審議会・委員会の位置付け
7-4	推進実務主体は誰か。委託事業の仕様をいかに設計するか

一つずつの検討では、国内各館の規模・ポリシー・予算等の違いにより議論は前に進まない懸念があるところ、一挙の検討により大まかなコースを描くことが必要と考えられる

これまでの議論を以って得られた論点

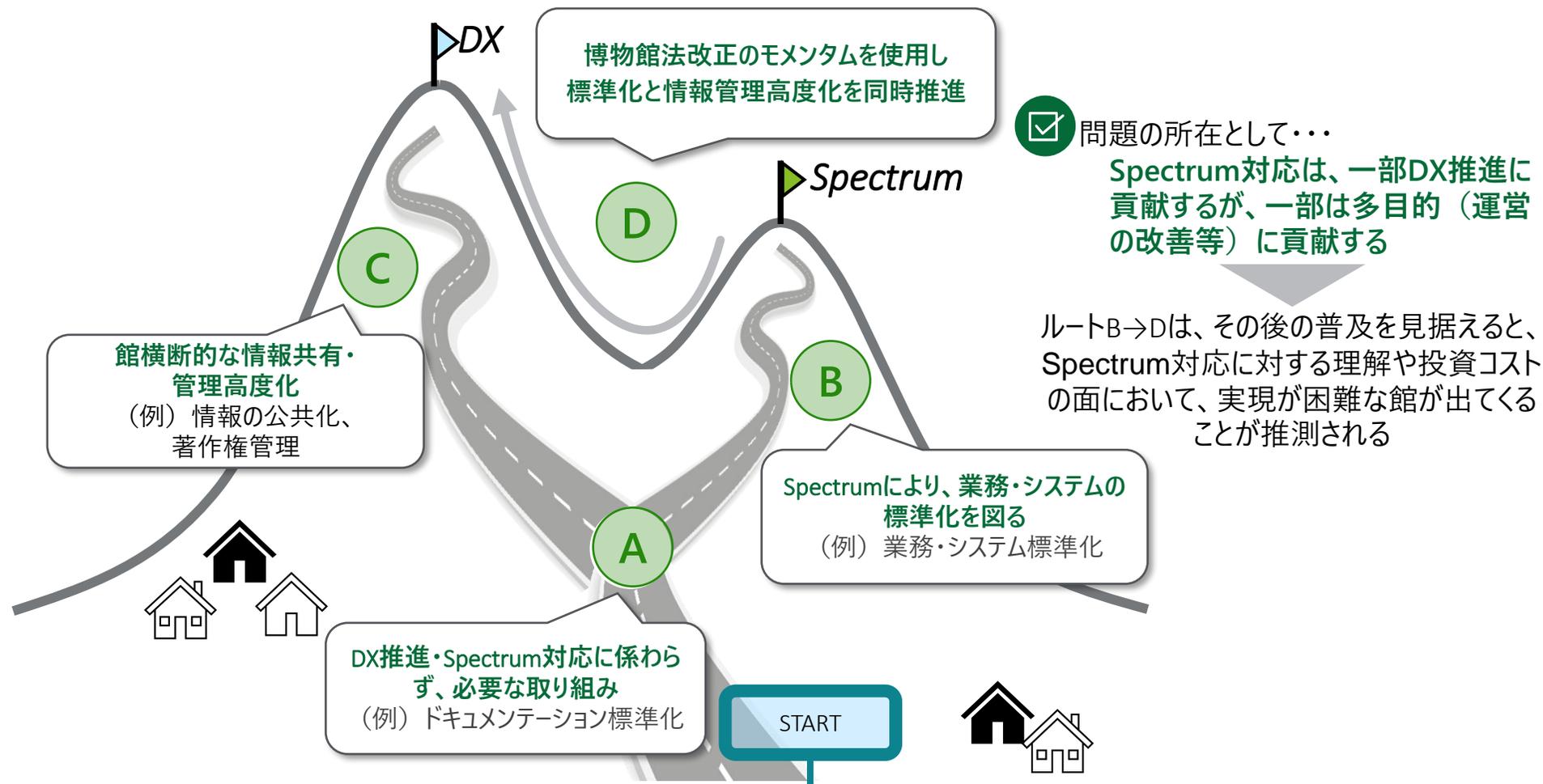


DX論・運用論・システム論の3つの軸の議論が混然として全てを一度に議論しなければモグラたたき状態になり、議論解決に時間を要する

➡ では、次年度に結論を出すことを前提とした場合に、どう踏み出すべきか

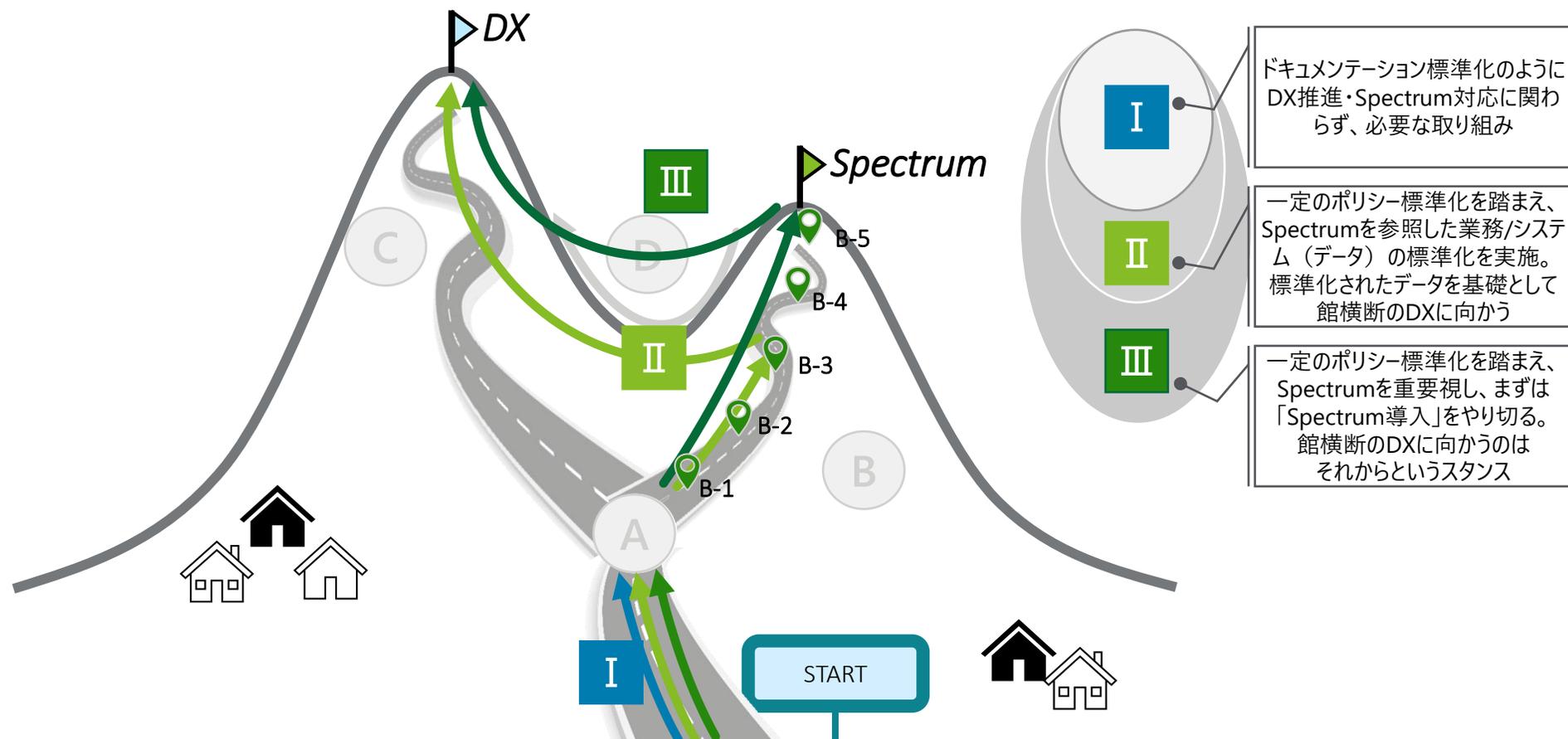
当初はB.標準化とD.ブロックチェーンによるDXの順序的な実現が構想されていたところ、前提にはA.ドキュメンテーション標準化があり、C.DX推進を切り離すコースも見えてきた

論点の整理結果



博物館DXでも示唆されるように、ポリシー文書化は先ず以て一定の達成が望まれるところ、Spectrum対応と館横断DXは、各館それぞれ異なるコースが求められるものと思料する

各館意向の反映を妨げない事業推進コース

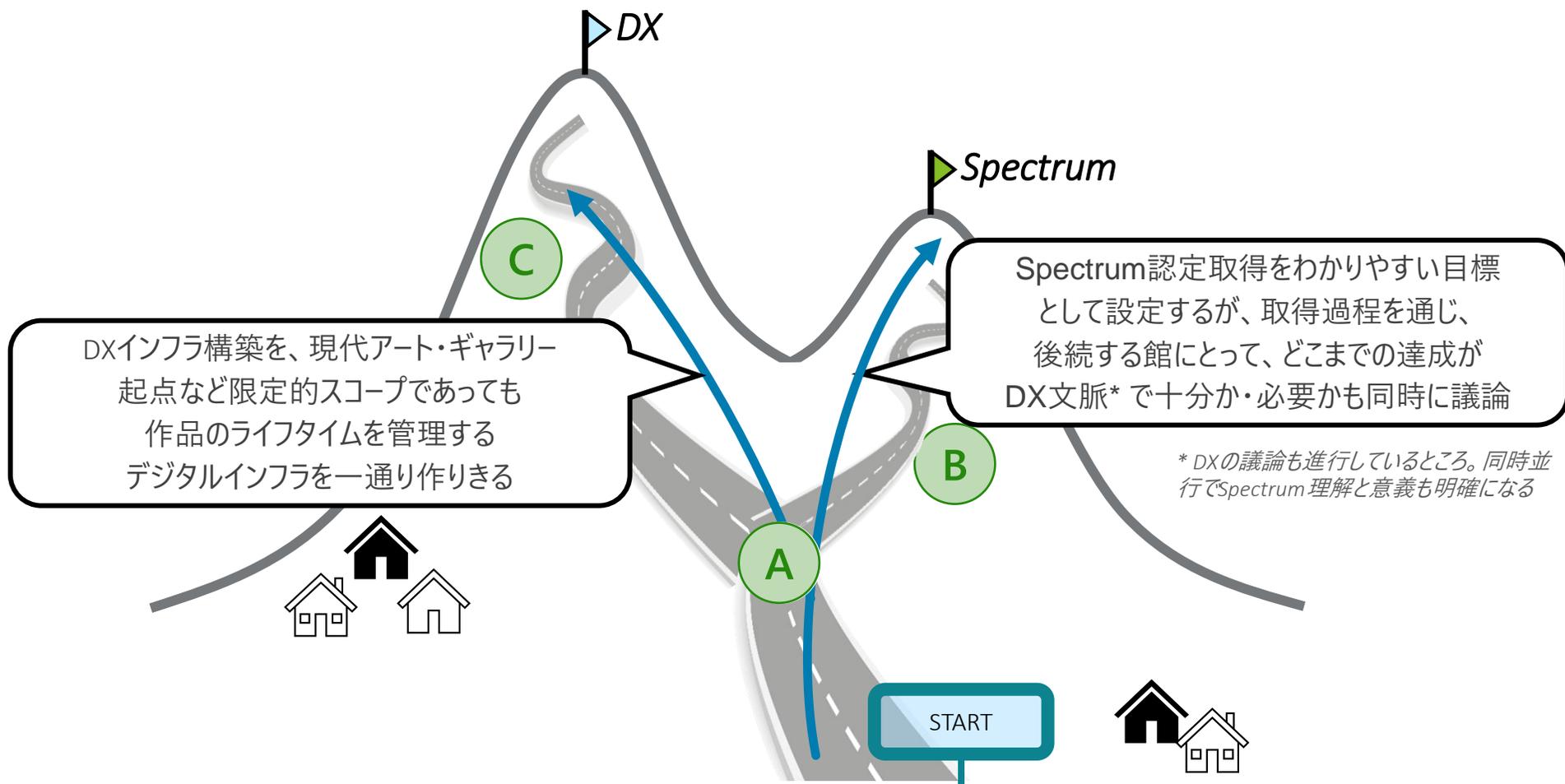


仮に、DX推進・Spectrum対応の実施基準を定め、どこまでサービスの高度化・拡充をいざなうべきなのか、館によって異なるパターンを準備するのが良いのではないか？

注：II 各ポイントを仮に設定すると次の例が考えられる。B-1：Spectrumベースドキュメンテーション標準化、B-2：業務標準化、B-3：Spectrumベースデータ標準化、B-4：CT認定コレクション管理システム導入、B-5：日本版Spectrum導入のベストプラクティス体现、または文化庁との連名にて翻訳団体に参画

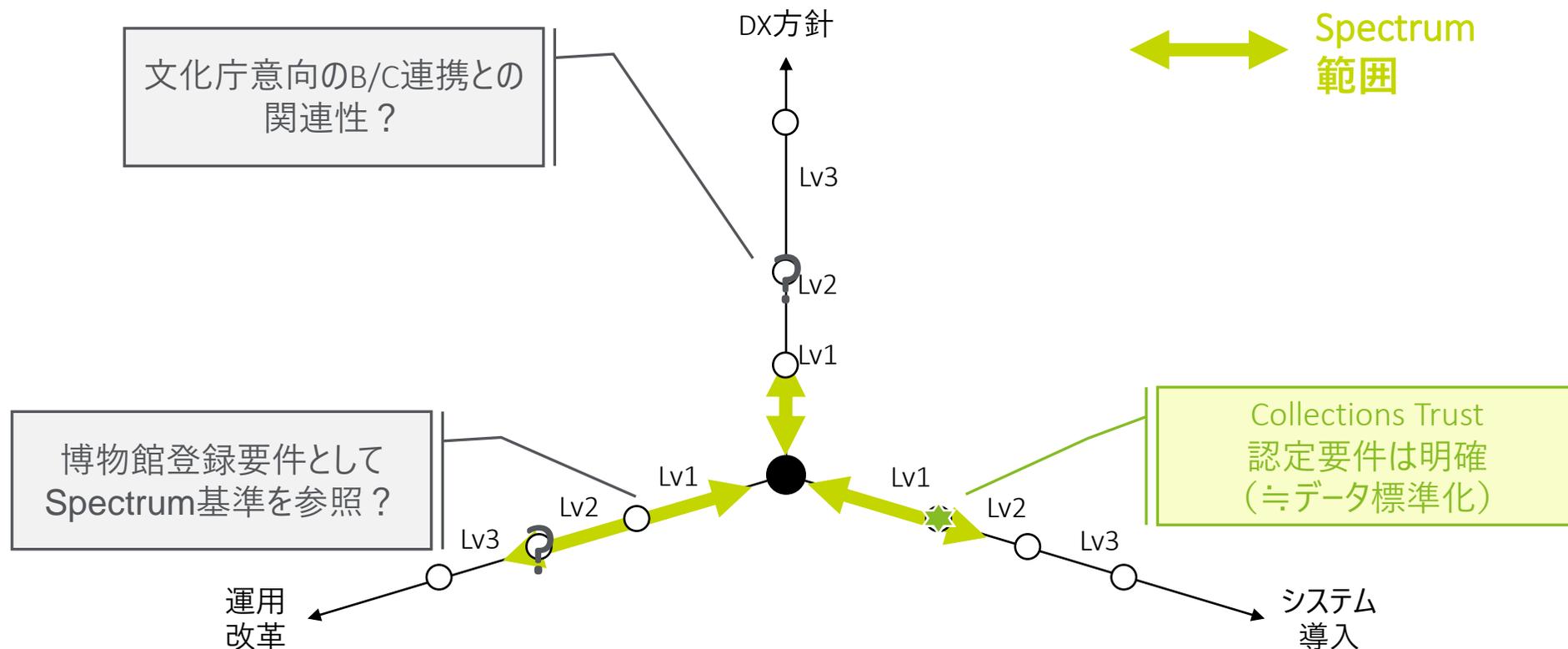
前項の通り、辿るコースに選択肢はあるものの、大きくは2つの山を登ることについてロードマップの策定が求められる状況と考える

来期の2つのアイデア



Collections Trustによる収蔵品管理システム認定要件は明確であるが、事業全体の文脈においてB/C連携や業務プロセスとの関連性が見えづらい状況にある

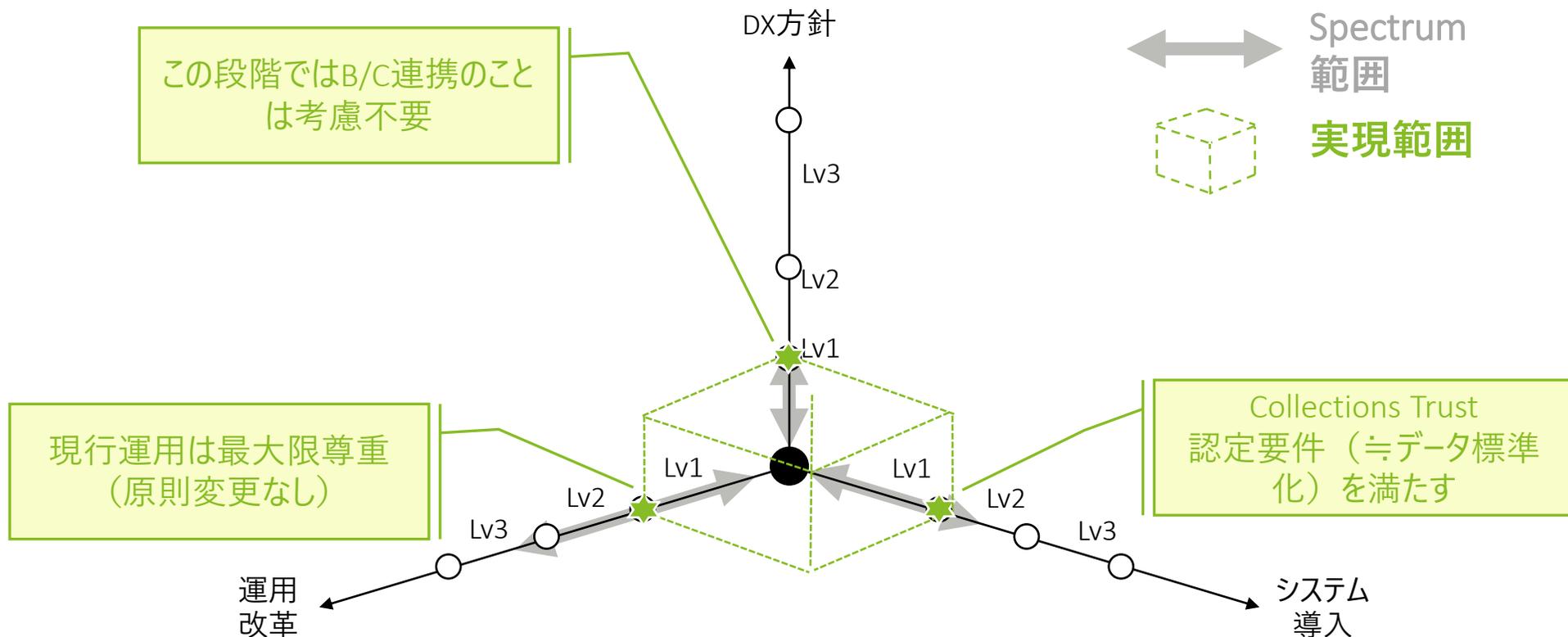
当検討推進上の課題



SpectrumはDX方針・運用改革にガイドラインとして言及するものの、Collections Trust認定要件にDX方針・運用改革の要素は存在しません。一方で事業全体の文脈では、Collections Trustならぬ文化庁ご意向としてのDX方針・運用改革の要素が登場することにより、議論が複雑に見えてしまいます

議論を複雑にしないため、1st Stepとしては、Collections Trust パートナー認定の取得は、これ単独の問題として扱うことが望ましいと考える

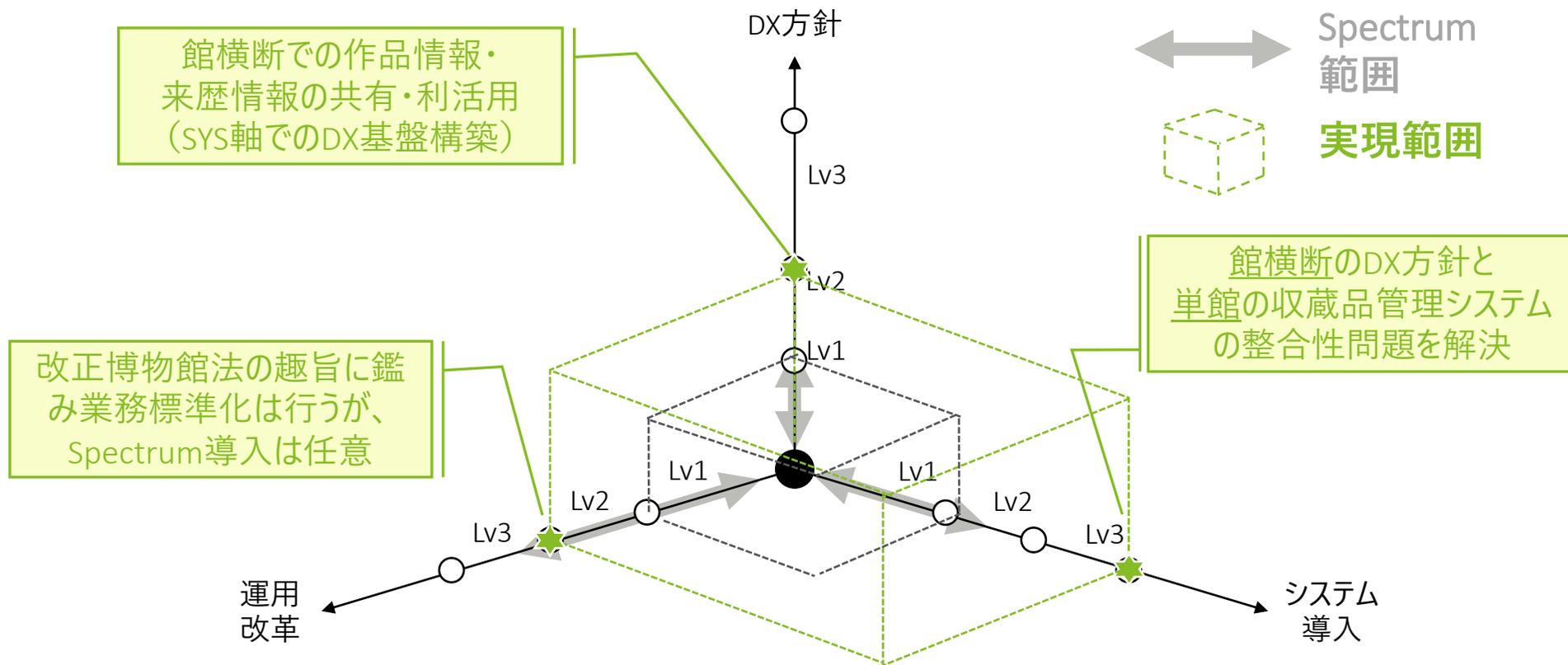
1st Step : Collections Trust パートナー認定の取得



パートナー認定については、認定要件と手続きの論点に終始する必要があり、DX方針や運用改革の論点と同じ文脈で会話しないこと肝要と考えます

「館横断で情報を管理するDX基盤」「Spectrumベースの業務プロセス改善」と収蔵品管理システムの関連を検討するのが2nd Stepと整理することができる

2nd Step : 収蔵品管理システムSpectrum対応後の将来像



収蔵品管理システムとの関係では、「パートナー認定」とは別に、「館横断で情報を管理するDX基盤」、
「Spectrumベースの業務プロセス改善」というテーマがあることが分かります

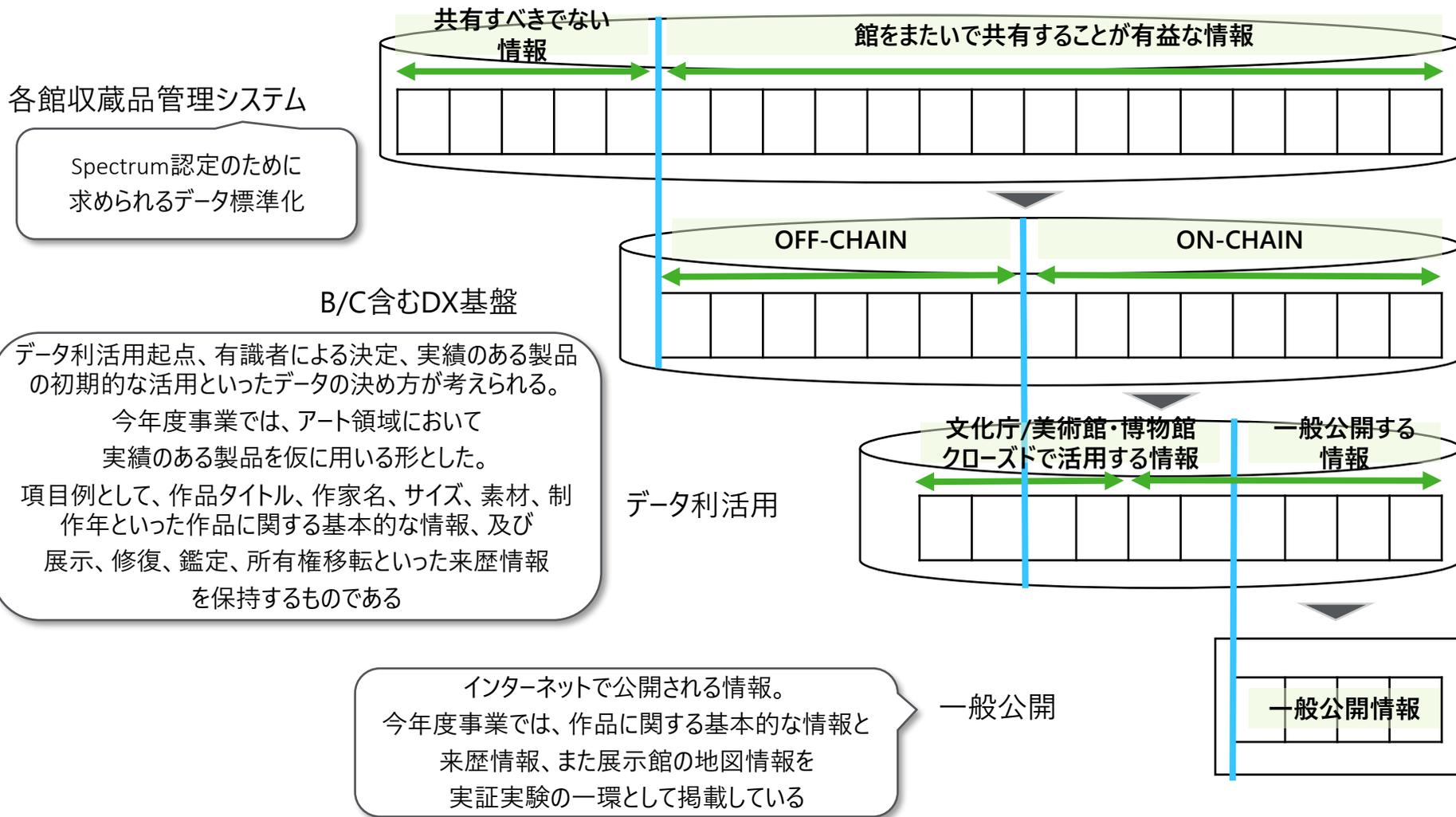
パートナー認定取得とその後の将来像実現について論点を抽出の上、国内収蔵品管理システム開発会社との対話を実施した

従前討議を踏まえた論点整理

前提	システム関連					DX軸・OP軸での高度化
	アーキテクチャ + 適用技術	開発	導入 (顧客向け)	手続き/その他	スケジュール	
<p>1st Step</p> <p>Collections Trust パートナー認定の取得 (≒ 必要データ項目の具備)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 完全新規のシステム開発は不要ではないか ✓ アーキテクチャの見直し要否 (オンプレ/クラウドで同じか) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ (特にクラウドでは) ユーザ設定中心になるのではないか ✓ 認定向けの開発コスト見積り必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 導入コスト (単館コスト×潜在顧客館数) の見積り必要性 ✓ 事業性検討に向けた各館 Spectrum対応の必要程度 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Collections Trust 契約による自社便益と制約の事前把握の必要性 ✓ Collections Trust システム検証内容の事前把握の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Translation License認定との前後関係はないか ✓ 基本的には令和5年度の対応か 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各館業務プロセスとの整合性はどうか ✓ 博物館登録要件との関係性
<p>2nd Step</p> <p>収蔵品管理システムSpectrum対応後の将来像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 収蔵品管理システムとDX基盤の連携方式。例えばAPI (自動) かファイル連携 (マニュアル) か。データ連携の主体はどちらか 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ファイル連携 (マニュアル) のように、収蔵品管理システムを極力改修せずにB/Cできる方法が良いのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ファイル連携 (マニュアル) の場合、収蔵品管理システムとして導入作業は必要とも不要とも整理できるが、開発会社は、事業の座組みにどう位置付けられるか 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 日本版 Spectrumの運用との関係性は文化庁に要確認か (そもそも関係を持たせるのか) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Collections Trust パートナー認定との前後関係はないか ✓ 令和5～6年度の対応か 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 各館業務プロセスとの整合性はどうか ✓ 博物館登録要件との関係性は文化庁に要確認か

当事業の構想をこのままの方向性で進める場合には、4段階でのデータ標準化について検討が求められるものとする

収藏品管理システムを起点としたデータ標準化イメージ



翻訳・公開の認定、また収蔵品管理システムの開発会社向け認定について、至認定の果実を得ることに向けた計画を提示する

Spectrum認定ロードマップ案

R 4 年度	R 5 年度										
成果物	推進工程	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
 Spectrum 日本語訳 全プロシージャー	Spectrum 翻訳認定	受審体制構築	有識者選定								
		21プロシージャー 申請・審査	CT指定フォーマット 入力		貴庁・有識者・受託者にて受審						
		CT審査対応	QA対応・面談等								
		CTウェブサイト 反映・公開							CTウェブサイト反映	公開	
		翻訳ライセンス 契約	貴庁内手続き						CT手続き		
 Spectrum 要件定義書 全プロシージャー	収蔵品管理システム認定	Spectrum 要件の具備	Spectrumに基づく要件の実装								
		システムレビュー	システムレビューの受審								
		レビュー対応	QA対応・面談等								
		管理ツール パートナー契約	契約内容確認・社内手続き						CT手続き		

先般討議を踏まえ、特定アーティストの作品を対象に、一次流通/二次流通/最終到達点としての収集、一連のB/C管理を実証実験の上、実証範囲を一部本番化する

アート流通DXロードマップ案

		R5年度								
推進工程		7	8	9	10	11	12	1	2	3
事業計画	アート流通全体のDX構想	アート流通 構想策定								
	計画策定	目的設定 テーマ選定		日程計画 作業計画						
アート流通 実証実験	体制構築 (w/ギャラリー・アーティスト)	ギャラリー・アーティストの協力要請								
	作品と情報の関連付け				ICタグの取り付け					
	作品/来歴情報の初期登録				情報登録					
	実施・レポート						実施		レポート	
プラットフォーム β版開発	実証範囲の本番化						本番化に向けた準備		運用開始	
	閲覧用インターフェース一般公開					一般公開向けWeb開発		一般公開		

本報告書は、文化庁の委託業務として有限責任監査法人トーマツが実施した
「令和4年度 美術品DXによる管理適正化・市場活性化推進事業」の成果を取りまとめたものです。
従って、本報告書の複製、転載、引用等には文化庁の承認手続きが必要です。